

Although 節の位置と解釈

田岡 育恵

情報科学部 情報メディア学科

(2006 年 5 月 25 日受理)

The Positions of *Although* Clauses and Their Interpretation

by

Ikue TAOKA

Department of Media Science, Faculty of Information Science and Technology

(Manuscript received May 25, 2006)

Abstract

Although clauses can be preposed as well as postposed in a sentence. When *although* clauses appear before main clauses, the hearer assumes at the front of the sentence that the information of an *although* clause is only of secondary importance compared to that of the following main clause. When *although* clauses occur after main clauses, they function as afterthoughts and reduce the force of the preceding main clauses. Which clause is weakened by *although* is the opposite depending on the position of the *although* clause in the sentence. *Although* clauses can also occur independently without main clauses. The transition in which the speaker changes his or her viewpoint or thoughts can be more effectively expressed in such independent *although* clauses.

キーワード; 前置、後置、譲歩、主節、従属節

Key words; preposing, postposing, concession, main clause, subordinate clause

1. はじめに

although 節は、他の多くの副詞節と同様に主節の前に来ること（前置）も主節の後に来ること（後置）もある。本稿では、although 節に関して前置と後置の意味解釈プロセスにおける違いを考察する。先ず、等位接続詞 but との違いを念頭に置きながら考察を進める。その上で、前置 although 節と後置 although 節の違いを明確に示したい。更に、主節を省略したかのように見える、言わば独立した although 節というものがあるが、何故このようなことが起こるのか、その効果について考える。口語と文語の違いや頻度の違いということはここでは考察の対象にはしない。小説から取った実例に基づき、何故 although 節が前置しているのか、あるいは後置しているのかについて、また独立している場合の文体効果について論じていきたいと思う。

2. Although と But はどう違うか

2.1 but と前置 although の共通点と相違点

授業中、although と but を混同している学生に気づくことが多い。つまり (1a,b) のような文を「しかし、彼は貧しく幸せだ」、「彼は幸せだ、しかし 貧乏だ」と訳すのである。

(1a) Although he is poor, he is happy.

(1b) He is happy, although he is poor.

これらは従属節と等位節の構造の区別がつかず、ただ although の単語の意味のみ覚えているために起こる間違いだろう。英語のように後ろから節頭の従属接続詞に戻る構造を持たない日本語に引きずられた結果だとも言える。しかし、同時にそのような学生の反応は人間の認知構造をよく表していると言える。つまり人間は先に出てきたことから処理しようとするものである。そして、この処理方法は although ではなく but なら主節に対する従属構造に組み込まなくてよいわけだから、それでいいことになる。

伊藤(2005:145)は、フランス料理店の話をしている談話者の会話として (2a) の発話を聞いた談話者は「あのフランス料理店は味はいいんだろうが、値段が高いのか...じゃ、行くのをやめよう」という判断を下す可能性が高くなる。一方、(2b) の発話を聞いた談話者は「あのフランス料理店は、値段は高いが味はいいらしい...じゃ、行ってみよう」という判断を下す可能性が高くなると述べている。¹⁾

(2a) うまい、しかし、高い。

(2b) 高い、しかし、うまい。

このことは、そのまま英語の but に当てはまる。「A but B」では A より重要なこととして B が出される。また、although も前置の場合、「Although A, B」では「A だけれども（しかし）B」ということで同様である。この場合、B が後続情報でより重要な情報となるというだけでなく A が従属節だということも A が弱まり B が強くなる要因である。

(3a) The food there is delicious, but it is expensive. (話者が言いたいのは B の「高い」)

(3b) The food there is expensive, but it is delicious. (話者が言いたいのは B の「おいしい」)

(4a) Although the food there is delicious, it is expensive. (話者が言いたいのは B の「高い」)

(4b) Although the food there is expensive, it is delicious. (話者が言いたいのは B の「おいしい」)

では、前置 although と but との違いは何かというと、それは but の場合、「譲歩」の解釈は but が出てきて初めて聞き手に指令されることになるが、前置 although では最初に A を後から来る B に対して「譲歩」として処理する指令が出ているという点である。文頭は目立つ位置である。そこで譲歩指示が下されれば、聞き手はその節がすぐ後の節に覆されるものということを念頭において文解釈をしようとする。

2.2 but と後置 although の共通点と相違点

後置 although の場合、「譲歩」指令が出る場所は but の場合と同じである。

(5a) A but (譲歩の接続詞) B

(5b) A although (譲歩の接続詞) B

しかし、ここで前者が等位構造で後者が従属構造という違いが出てくる。『三省堂ウィズダム英和辞典』には後置 although について「前言を弱める内容を思いついたときに軽く添える言い方」(下線は筆者)とある。²⁾ A although B の B は A を覆して B を主張しているというよりも「A に少しケチをつける」、「A の力を削ぐ」というようなものだと言えよう。

B が話者のさ程強い主張ではないということは次のような例にも窺える。それは、後置 although の後に but が続く例が多くあるが(以下に挙げるのは、そのごく一部である)、その but が覆すのは although 節の内容であり、その前の主節を寧ろサポートするような内容になっている(下線は筆者)。

(6) The rest seemed perfect, although she knew nothing was, and this couldn't be. But it sure looked it. (D.

Steel, *Second Chance*:85)

- (7) She didn't really have room for him, although he was happy staying with her, but her closets were nightmare, and she couldn't seem to find space for him. (ibid:107)
- (8) She was still blaming herself, and he wondered if she missed her job, although she said she didn't, but he wasn't sure if he believed her. (ibid:178)
- (9) She felt almost human, although she still missed her son and husband. But the pain of their absence was a little more bearable than it had been three months earlier. (D. Steel, *Safe Harbour*:162)
- (10) He would have liked to paint a portrait of Ophelie too, although he hadn't done one of an adult in a long time. But he would have liked to try. (ibid:202f.)
- (11) She had recently starting going out with one of her colleagues from the office, although Ophelie knew he was married. But that never seemed to bother Andrea. (ibid:263)
- (12) It still wasn't too late to turn back, although she knew it would disappoint him immensely. But disappointment might be better than eventual despair and destruction. (ibid:351)

上の例は、すべてA although B, but Cという構造になっている。(6)では、A「休息は申し分ないもののように思われた」の後にB「そのようなはずはない(のに)」が来て、Aはuntrue(違うはず)と否定されるが、その後にC「確かにそう思われる」(≒A)が来ている。(7)では、A「彼のスペースがなかった」の後、B「彼といえるのは幸せだ」でAをuntrueにしよう(つまり、彼のスペースがあるようにしよう)、その後にC「スペースは見つけられそうもない」が来て、結局、Aが肯定される。(8)では、A「彼女は仕事が恋しいのではないか」、B「彼女はそのようなことはないと言った」、C「彼女がそう思っているとは思えない」となり、Aの彼女が仕事を恋しがっている疑いは否定できないことになる。(9)では、A「どうにか普通の状態に戻ってきた」、B「夫と息子は今も恋しい」、C「彼等のいない寂しさには以前より耐えられるようになった」で、Aに戻っている。(10)は、A「Ophelieの肖像画を描いてみたい」、B「大人の肖像は久しく描いていない」で、やはり無理かとAを一旦否定しかかるが、その後、C「やはり描いてみたい」とAをサポートしている。(11)は、A「彼女は仕事仲間の一人と付き合い始めた」に対して、B「その相手は既婚者だった」で、それなら交際を止

めるかと言えば、C「既婚であることは彼女にとってはどうでもよいらしい」で、結局Aは揺るがない。

(12)は、A「引き返すのに遅すぎはしない」、B「引き返せば彼はがっかりするだろう」、C「その失望の方が(引き返さない場合の)絶望、破滅よりは良い」で、結局Aが支持されることになる。

3. although 節の前置と後置を決めるのは何か

では、but との比較の際に少し述べたが、前置 although 節と後置 although 節の解釈プロセスの違いを論じていこう。しかし、その前に、前置・後置を決めるものとして、そのような従属節の構造を超えたことがあるように思われる。それは、節の内容から節順が決まるということである。それを先に見ておきたい。

3.1 情報として何が「先」なのか

主節で述べられたことを前提にする事態が although 節に来る場合、そのような although 節は当然、後置される。たとえば、次のように although 節に代用表現があり主節にその先行詞がある場合(下線は筆者)、主節が、というより先行詞を含む節が先行するのは当然のことである。

- (13) and it was actually rare for couples to attend together, although Blake always wished that people did that more often. (ibid:122)
- (14) She had been doing well in the group so far, although he had the impression that she didn't think so. (ibid:123)
- (15) Fernanda, the attorneys, and the heads of Allan's defunct companies had done a brilliant job keeping it quiet, although they couldn't do it forever. (D. Steel, *Ransom*:114)
- (16) But he couldn't let her walk home with a gash in her foot, and he was almost certain she'd need stitches, although he didn't mention it to Pip. (D. Steel, *Safe Harbour*:72)
- (17) Pip tells me you're French, although you can't even hear it. (ibid:77)
- (18) Adrian always thought it was unfortunate that she was alone, although she claimed that she preferred it that way. (D. Steel, *Second Chance*:40)
- (19) and they had talked about the possibility of commuting between their two homes, although it created a problem for Fiona with her dog. (ibid:107)

(13)の *although* 節の *that* が指すのは主節の「カップルが一緒に出席すること」、(14)の *so* が指すのは主節の「うまく行っていること」、(15)の *it* が指すのは主節の「それを隠しておくこと」、(16)の *it* は「縫合が必要だということ」、(17)の *it* は「フランス人であること」、(18)の *that* は「独りでいること」を指している。そして、(19)の *it* は「二人の家を行き来すること」である。これらは、すべて先行する主節で出ていることである。

although 節に省略が見られ、その省略対象が主節に出ている場合（下線は筆者）も主節先行である。

(20) He looked like one of Ulm's friends, *although* he was far better looking. (D. Steel, *Echoes*:14)

(21) Isabelle and Heather were now respectively eight and nine, *although* in his mind's eye they were still considerably younger. (D. Steel, *Ransom*:11)

(22) The only feature she shared with the others was enormous blue eyes, *although* hers were darker than her brothers' or Brigitte's. (D. Steel, *Echoes*:8)

(23) She could still smell him, *although* more faintly. (D. Steel, *Safe Harbour*:175)

(24) And after they'd given her mother the shots to make her sleep, she finally agreed, *although* reluctantly. (ibid:383)

(25) Three bullets sounded more than any one human could survive, *although* Matt knew some had. (ibid:378)

(26) And after her years of kindness and loyalty to them, and the girl's attachment to her, John didn't have the heart to send her back to North Dakota, *although* he would have liked to. (D. Steel, *Second Chance*:134)

(27) "It's better," Ophelie answered her, not entirely honestly, *although* in some ways it was. (D. Steel, *Safe Harbour*:25)

(20), (21)では、*better*, *younger* のような比較級が見られるが、この比較対象はそれぞれ先行する主節の「Ulm の友人の一人」、「8 才、9 才」である。(22)の所有格の後の省略は主節の「青い目」、(23), (24)はともに副詞のみ出ているが、省略されているのはそれぞれ主節の動詞「においがする」、「同意する」である。(25), (26)も共に動詞部分の省略で、主節の「生き延びる」、「彼女を帰す」を指す。(27)の省略された形容詞は、主節の *better* である。

代名詞や省略は見られないが、次の例も主節で導入されたことを展開する *although* 節になっていて、

当然、主節先行である。

(28) She realized that he looked more like her father than ever when he smiled, *although* her father hadn't smiled very often. (ibid:68)

(29) He liked sticking close to her, even more so now without his dad around, *although* Allan hadn't paid much attention to him in recent years. (D. Steel, *Ransom*:97)

(30) Adrian had sent someone out for the racks for her, and Jamal had set them up in the guest room, *although* she didn't discover until they collapsed twice with all her evening gowns on them that he had set them up wrong. (D. Steel, *Second Chance*:99)

(28)は、主節で「笑ったときに父親と似ているということ」が持ち出されて、そう言えば「父親はあまり笑わなかったけれども」ということが思い出され、それが *although* 節になっている。(29)でも、「父親がいなくなった今となつては」と、主節で「父親」が導入されて、その後 *although* 節で Allan (=父親)のことが思い返される。(30)では、「Jamal がラックのセットをした」後で「セットの仕方がおかしかった」と分かるわけで、この場合も主節の出来事が *although* 節の前提である。

逆に、次の(31)では、「彼女が元気を回復した」ということが先ず *although* 節で述べられて、それなら料理を作る気になったかと言えば、そこまではいかないということが後の主節で述べられている。この場合は主節の方に省略が見られる（下線は筆者）。

(31) And *although* her spirits had improved somewhat, her culinary interest hadn't. (D. Steel, *Safe Harbour*:127)

要は、主節であれ *although* 節であれ、先行すべき情報を含む節が先に出ることである。次の例でも節順を入れ替えるとおかしくなる。

(32) *Although* he loved all his children, he was extremely proud of his oldest daughter. (D. Steel, *Echoes*:10)

(33) They were interesting-looking group of people mostly young, *although* there were a number of them who were as old as, or older than, Ophelie. (D. Steel, *Safe Harbour*:192)

(32)は「彼は自分の子供たちを皆、愛していたが、特に長女が誇りだった」ということだが、*although* 節を後置するのであれば、*although* he loved his other childrenのように *other* を加えなければおかしくなる。「長女が特に誇りだった」と言った後、漠然と「自分の子供たちを皆、愛していた」は何ら新しい情報

を付け加えるものではなく、「長女以外の子供たちも」というような対比でもなければ情報の流れとして変だからである。(33)で節順を入れ替えると、主節のtheyがalthough節で導入される「彼女と同じぐらいか、もっと年上の人たち」を指すことになってしまい、後からmostly youngが出てきて矛盾に気づくというようなおかしいことになるだろう。

次の例では、後置 although 節が先行する発話行為の補足説明をしている。

(34) “What do you want to be when you grow up?” Ted asked him with interest, although Sam was too young to know. (D. Steel: *Ransom*:93)

(35) “If we want to be,” he said cautiously, although he felt awkward answering her. (D. Steel, *Second Chance*:200)

(34), (35)は、相手に質問したり答えたりした、その発話行為についての補足的な内容が although 節にきている。(34)では、「大きくなったら何になりたいか」と聞いて、「年齢が幼すぎてまだ分からない」と、今の質問は不適切であったかという疑念が後から出てくるのである。質問が不適切だと最初から思っていれば尋ねたりはしないだろう。(35)も相手に答えて、その際にぎこちなく感じたということであり、これも先にそのように感じていたわけではない。

後置 although 節は、主節で述べたことに付け加えとして出てくるものであるが、それが後続文のテーマになっていくこともある。

(36) And he was glad she had told him about her father and Chad, although she hadn’t explained how sick Chad had been. But it seemed disloyal to her to tell him that. (D. Steel, *Safe Harbour*:48)

(37) She was the prettier of the two, although they were almost identical and looked like twins. Both were blue-eyed blonds like their mother. (D. Steel, *Second Chance*:115)

(35)は、although 節の「Chad がどれほど悪かったかを説明しなかった」の後に次の文で「それを言うのは裏切りのように思えた」と述べられ、although 節で出たことが後続文のテーマになっている。(36)は、「二人がよく似ていた」という although 節に続いて、「二人とも母親に似た青い眼のブロンドだった」と、二人が似ていることの例が後続文で出されている。

3.2 although 節の前置と後置

先に but のところで述べたように、後続情報が常に意識の最先端にあり重要な情報となるのだが、後

置 although は従属節であるがゆえに後続情報と言っても先行する主節を覆すようなものにはならない。しかし、それでも後続情報重視のため主節の効力を削ぐものにはなっている。したがって、主節を強く出したいのであれば主節を後置すべきだということになるだろう。前置 although にすれば、その内容は100%覆されて後行の主節が主張されるということになるからである。

だが、although 自体は前置の方が目立つ。先ず although が出て、これから出す情報を後から来る主節に対して「譲歩」として処理せよという指令が出ているため、聞き手はそうように身構える。節内容がどのようなものであれ、「…ケレドモ」として処理するものとして後の主節を聞くまで although 節の内容を注意して保持しようとする。これに対して、後置 although 節は主節の出た後の付け足しのようなものである。以下の例で、更に確認しておこう。

(38) and opened the bottle of very nice French wine.

Although she seldom drank, it was one that she liked and reminded her of France. (D. Steel, *Safe Harbour*:97)

(39) And although some people had met their new spouses in his groups, he strongly discouraged them from dating each other while they were in it. (ibid:121)

(40) They had just decided not to eat dinner for the moment, although Ophelie knew the child had to eat at some point, hungry or not. (ibid:171)

(41) The family appeared wholesome, and moneyed certainly, although his mother’s drinking increased steadily over time, and wound her up in an institution eventually, leaving Peter and his two full siblings technically orphaned. (D. Steel, *Ransom*:3)

(42) She felt a hundred years old, although she was forty-two, and looked thirty. (D. Steel, *Safe Harbour*: 12)

(43) And they both agreed that they loved Italy, although he said that he was extremely fond of Germany, too, which wasn’t something he could admit openly at the moment. (D. Steel, *Echoes*:22)

(38)で言いたいのは、「彼女が開けたワインは彼女が好きなもので故郷のフランスを思わせた」ということであるが、although節の「彼女が滅多に飲まなかった」が後から出てくれば、先の「彼女がそのワインを好きだ」ということが弱められるだろう。(39)で強調したいのは、主節の「彼が彼らにデートさせないようにしていた」ということである。(40)のalthough節を前置すると、「Ophelieは子供は食べなく

てはいけないと知っていたけれども食べないことにした」と解釈していくことになるが、それでは前の *although* 節の内容全体を打ち消して「食べないことにした」が強く出る。しかし、この場合、*although* 節が後置されているので、「食べないといけないと分かっていたのだが」という母親である Ophelie の悔いに余韻を残すことになるのである。(41)は、主節の「一家は健全なように見えた」ことより *although* 節の「母親のアルコール中毒がひどくなってきた」ことの方が重いということは言うまでもない。では、何故、この場合、前の節に *although* を付けて、*Although the family appeared wholesome, and moneyed certainly...* としなかったのだろうか。それは、本来、付け足しの後置 *although* 節により重い内容を持ってくることで、主節と従属節の主従逆転効果を狙ったものと考えられる。副詞節と主節の主従逆転については、*when* 構文に関して田岡(1995)で取り上げた。³⁾ (42)では「まるで 100 才になったかのようにずっと年老いた気持ちになった」と言った後、「実際はまだ 42 才、見かけは 30 才だった」という補足が *although* 節である。これを前置すると、わざわざ年齢のことをはっきり断ったおかしい文になるだろう。(43)で、彼が本当に好きなのは時勢柄大きな声では言えないものの、イタリアではなくドイツである。節順を変えると、ドイツを好きだけれども、それよりイタリアだというように、彼がドイツを好きであるということが全面的に棚上げされ、その余韻を残さない文になるだろう。

4. 独立 *although* 節

独立 *which* 節や独立 *because* 節と同じく、主節を欠いた *although* 節がある。何故このようなことが起こるのかという理由としては、先行文につなげるのには直接的な関係にない、あるいは先行文につなげば長くなりすぎるということが考えられる。また *although* が目立つという効果もあるだろう。

(44) *She seemed down-to-earth and unpretentious.*

Although he couldn't help noticing that through the mane of long wavy blond hair were tiny diamond studs on her ears, and she was wearing a beautiful black cashmere sweater. But luxuries seemed inconsequential and were outshone by her gentleness and beauty. (D. Steel, *Safe Harbour*:79)

(45) *"He still has his apartment. Why doesn't he take people there if he doesn't want them to see Jamal?"*

Although she had suggested he give the business dinner at her house, which had seemed like a good idea. (D. Steel, *Second Chance*:158)

(46) *"It's a lot simpler here. I brought almost nothing."*

Although she had bought quite a bit, mostly at Didier Ludot. (ibid:207)

(47) *"Something happened to me yesterday," he said*

softly, still holding her hand. "Although I unearthed a terrible betrayal too. I had a visitor yesterday, for Thanksgiving. It's the first real Thanksgiving I've had in years (D. Steel, *Safe Harbour*:301)

(48) *Whatever else happened, she seemed to recover*

from the bad days sooner. Although she still didn't know what had happened on Thanksgiving. All she knew was that it had something to do with Andrea. (ibid:314)

(49) *It surprised even her that the reappearance of his*

ex-wife bothered her so much, but it did. Particularly now that she was widowed too. Although even Ophelie realized it was more paranoia on her part, than anything real. (ibid:323)

(50) *She just hoped the house sold fast once they put it*

on the market. Although that would be a shock for the kids too. (D. Steel, *Ransom*:53)

(51) *After seventeen years, she was so used to Allan, she*

couldn't imagine sleeping with another man. Although she knew that one day she might. But no time soon. (ibid:310)

(52) *He never got as angry at her as he did at Chad.*

Although, most of time, once they lived in a bigger house, he didn't pay much attention to her at all. (D. Steel, *Safe Harbour*:38)

(53) *But since her accident, he hadn't had time to do the*

preliminary sketches of her. Although he had a clear picture in his head of how he would paint her. (ibid:84f.)

(54) *"So, how's the beach?" "Absolutely dead without*

the two of you," he said sadly. Although the weather was terrific in the two days since they left. (ibid:195)

(55) *They had worked out all the details before he left.*

Although he certainly didn't expect them to kill four cops. That was not part of the plan. (D. Steel, *Ransom*:267)

(44)は「彼女は気取りの無い感じだった」と前文で述べた後で、「ダイヤモンドのイヤリングや美しいカシミアのセーター」と矛盾するようなことが出て

くる。だからこそ **although** が使われているのだが、ここで **although** 節を独立させているため、彼女の気取らない雰囲気を感じ入っている様がよく出ているのである。気取らない雰囲気に感心していて、しかし、よく見ればダイヤモンドのイヤリングをしていると気づく。そのような視点の推移を、**although** 節を独立させることでうまく表している。(45)は、相手が「彼は自分のアパートに人を呼んだらいいじゃないか」と言ったのに対し、彼女の部屋に呼んだらよいと彼に言ったのは彼女自身だったことを思い出している。先行発話は会話の相手の発話で **although** 節は彼女の思いということで、両者は直接結びつかない。(46)は、彼女自身の発言と思いという同一人物のことである。しかし、ここも **although** 節を独立させることで、「ここでの生活はずっとシンプルでほとんど何も持って来なかった」と言った後、そう言えば「(何も持って来なかったの)でここへ来て随分買い物もした」ということを思い出している。この **although** 節も、前の文と直接結びつくものではなく一瞬の間を置いて思い出したことである。(47)においても、「昨日ちょっとしたことがあってね」という第1文は、後の「何年か振りで感謝祭の休日に客があり感謝祭らしい日を過ごした」ことを指している。そのことを彼女に報告するときに「ひどい裏切りも分かったのだけれども」と **although** 節が割り込んでいる。この **although** 節も、最初から前文の **Something happened to me yesterday** につながって発話されたものではなく **Something happened to me yesterday** と言った後（この **something** とは後で述べられる嬉しい来客のことである）、一方、こういうこともあったとその場で付け加えられたものである。(48)の「感謝祭に何が起こったのかはいまだ分からなかった」も「彼女は回復してきたように見えた」の後に思い出した付け足しである。(49)では、先行文で「彼の妻の出現にうろたえている」ということが示され、「それが自分の被害妄想であると分かっていたのだが」という部分が独立 **although** 節になっている。これも、先行文で1文につながっていないので、「目下の状況に驚いている」ことが先ず強く出される。その後で、落ち着いて考えてみれば自分の被害妄想だと分かっていく。そのような思考の推移が **although** 節を独立させることによってうまく表されているのである。(50)は「早く家が売れて欲しいと必死で祈った」、その後で「それは子供たちにはショックだろう」と思い返し、それが独立 **although** 節になっている。(51)

も「他の男性と寝ることなど想像できない」と言い切って、少し考え直して「いつかそういう日も来るかもしれない」と付け加えている。独立 **although** 節は、その心の推移をうまく表している。(52)は「彼は彼女に怒ったことがなかった」ということに先ず言及され、しかし考えてみれば「そもそも広い家に引っ越してから、彼は彼女のことはまったく気にもとめていなかった」ということに思い至る。(53)も「最初のスケッチをする時間もなかった」に対して、「どういう風に描くか頭の中でははっきりしていた」が独立 **although** 節になっている。この場合も1文につなげるのではなく別の文として表現した方がそれぞれの文のインパクトがあると言えよう。(54)は「海岸は君たちがいないからまったくつまらなかった」と相手に答えた後、「海岸の天気はすごく良かった」と心の中でのみ思い返している。「天気はすごく良かったのだが」というのは話者が相手に答えたときに思い出したことである。(55)では「計画の細部まで練っていた」に対して、「4人の警察官を殺すことは明らかに予定外であった」を独立 **although** 節にしている。そのため、計画は周到だったと一旦、言い切り、それなのにこのような予定外のことが起こったのだという、その意外性が強調されるように思う。

5. おわりに

以上、**although** 節の前置、後置、そして独立形式について、それらの位置に来た理由、その解釈プロセスの特徴について考察した。論じてきたことを以下のようにまとめる。

前置 **although** 節

although 節が述べる事態の重要性は後から来る主節の事態に却下され、話者の主張は 100%、後の主節にある。最初に譲歩の解釈指令が出ているので、聞き手はそのつもりで **although** 節を処理する。

後置 **although** 節

話者の主張は先行する主節にあるが、主節の主張を **although** 節を付け足すことにより幾分弱める。譲歩の影響を受けるのは主節の方である。

独立 **although** 節

先行文と最初からつながっているのではない。視点や思考、気持ちの移る間を **although** 節を独立させることで効果的に表している。

6. 参考文献

- 1) 伊藤徳文；『談話情報と英語構文解釈』，東京：英宝社，(2005).
- 2) 井上永幸・赤野一郎編；『ウィズダム英和辞典』，東京：三省堂，(2003).
- 3) 田岡育恵；「主従が『逆転』する **when** 構文について」『園田学園女子大学論文集』 30－I，pp.61-73，(1995).